

「第13回研究大会集録」の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長

第13回石川県書写書道教育研究大会長

藤 則雄

平成14年の年の瀬もせまった師走5日、石川県の諸学校で書写書道教育にたずさわっている教育者の参加を得て、第13回石川県書写書道教育研究大会が野々市町文化会館・菅原小学校を主会場とし、県教育長・野々市町教育長をはじめとして指導主事各位のご臨席のもと、実り多い成功裡に開催されました。

大学から幼稚園まで、特殊諸学校をも含めての書写書道教育の一貫性と有機的連携性を目標に、全国でもその例を見ない連盟化を成し遂げ、会員相互の親睦と研鑽を得て、10年余の間に大いに発展をなしてきました。

当初は、研究大会を本連盟のコアに据え、その開催を輪番方式で運営してきましたが、近年における少子化と教員養成制度の変革等に関わる書写書道教師の減少化等のために、今後は廻持ち式開催もさることながら、教師の力量を高揚させる努力こそ、より重要であると認識し、今後の大会では授業研究の他に全国大会等での研究報告を踏まえて討論を進めてゆくこととしました。

かかる基本方針のもと、平成14年度の大会では授業研究のほかに全国研究大会等での研究成果を踏まえた報告・討論会となりました。全日本書写書道教育研究大会や全日本高等学校書写書道教育研究大会等に参加され、本大会で報告下さった岩田稚子・林昭悦・広畑登代子先生や、授業を公開された堀順一郎先生に心からの感謝を表したいと思います。

この度の大会の開催等に多大のご協力を賜った野々市町教育委員会・菅原小学校の教職員各位と本大会実行委員各位に心からの感謝をいたします。

最後になりましたが、本連盟が会員の不断のご努力とご支援で今後ますます発展し、会員が健勝にて研究・教育にご精進くださることを心から祈念いたしまして、集録発刊のご挨拶といたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 第13回石川県書写書道教育研究大会要項	3
3. 研究協議会Ⅰ報告	7
「書写書道教育における今日的課題—全国の実践を受けて—」	
◇全日本書写書道教育研究会東京大会報告	
岩田 稚子 (金沢市立高岡中学校)	
◇全日本高等学校書道教育研究会栃木大会報告	
林 昭悦 (県立津幡高等学校)	
広畑登代子 (県立鶴来高等学校)	
研究協議会Ⅰのまとめ	14
4. 公開授業報告	17
小学校6年 「文字の組み立て方と字配りを考えよう」	
—題材— 「記念」	
堀 順一郎(野々市町立菅原小学校)	
5. 研究協議会Ⅱ報告	
授業実践にむけての具体的手立てを探る	
「一人ひとりの良さが生き、認め高めあう書写学習の展開」	
研究協議会Ⅱのまとめ	24
6. 大会に参加して	29
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ	33
8. 平成14年度石川県書写書道教育連盟役員一覧	37
9. 石川県書写書道教育連盟規約	39

第13回石川県書写書道教育研究大会

平成14年12月5日(木)

第13回

石川県書写書道教育研究大会

野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

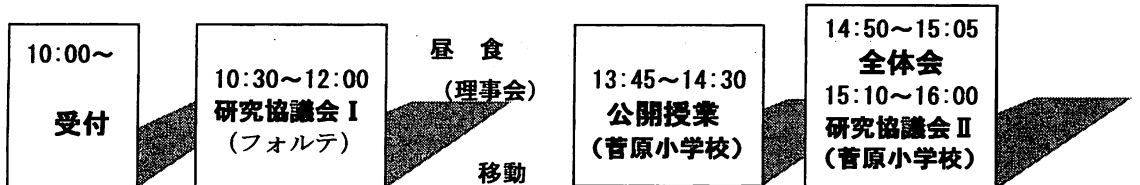
主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：野々市町教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

日程



研究協議会 I (全国大会報告) (10:30~12:00)

(敬称略)

「書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～」

① 全日本書写書道教育研究会東京大会報告

レポーター：岩田 稚子〈高岡中学校〉

② 全日本高等学校書道教育研究会栃木大会報告

レポーター：林 昭悦〈津幡高等学校〉

広畑 登代子〈鶴来高等学校〉

③ 報告を受けてディスカッション

司 会：水上 真由美(金沢商業高等学校)

記 録：磯野 美佳(星稜中学校)

12:00~13:45 昼食休憩・移動

参加者(カルチャールーム):理事会(1F・ミーティングルーム)

公開授業 (13:45~14:30)

(敬称略)

小学校 6年 「文字の組み立て方と字配りを確かめよう」

—題材— 「記念」

指導者：堀 順一郎(菅原小学校)

全体会・研究協議会Ⅱ (14:50~16:00)

(敬称略)

全体会 あいさつ・祝辞

研究協議会 授業実践にむけての具体的手立てを探る

「一人ひとりの良さが生き、認め高めあう書写学習の展開」

発表者 堀 順一郎(菅原小学校)
助言者 岡部 朋代(石川県教育センター)
司 会 西脇 良樹(越路小学校)
記 録 西田 素子(野々市小学校教諭)

研究協議会 I 報告

大会参加レポート

研究協議会のまとめ

第43回 全日本書写書道教育研究会

東京(豊島区)大会 参加報告

金沢市立高岡中学校

教諭 岩田 稚子

【はじめに】

本年度より、新教育課程が施行され、中学校国語科の授業は、1年生では週4時間、2・3年生では週3時間となった。3年前に比べると明らかに週1時間の減少である。いろいろな場で話を聞いていると、国語科担当者の中でさえ「書写はもはやなくなった」と思っている方がいらっしやるので、驚くとともに会話に困ってしまうことがあった。

私自身は、これまでに5回この研究会に参加したことがあり、その都度収穫を得てきた。今回も、今後の授業実践にむけ、特に「生活に生かす」という観点において何かしらのヒントを得られることを願い、この大会に参加することにした。

【第43回全日本書写書道教育研究会(東京大会)】

1. 会 期 平成14年10月10日(木)・11日(金)
2. 場 所 豊島区立要小学校・豊島区立千川中学校・学校法人十文字学園 十文字高等学校
豊島区民センター・豊島公会堂
3. 大会主題 **生活に生かす書写・書道教育**
 - ・小学校テーマ 「基礎・基本の習得と日常化をめざす書写学習」
 - ・中学校テーマ 「文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習」
 - ・高等学校テーマ 「豊かな創造力を培う書道学習」
 - ・大 学テーマ 「教員養成課程における書写・書道の授業」
4. 公開授業
 - (1) 小学校 豊島区立要小学校 1年・3年・6年
 - (2) 中学校 豊島区立千川中学校 1年①・②
 - (3) 高等学校 学校法人十文字学園 十文字高等学校 1年
 - (4) 大 学 VTRによる授業
(小学校教員養成・中学校教員養成・高等学校教員養成)
5. 分科会
 - (1) 小学校 豊島区立要小学校
 - (2) 中学校 豊島区立千川中学校
 - (3) 高等学校 学校法人十文字学園 十文字高等学校
 - (4) 大 学 学校法人十文字学園 十文字高等学校
6. 講演会
演題：「書く」ことと総合的な学習
講師：東京学芸大学教授 児島 邦宏 先生

【参観授業より】

★ 千川中学校 1年1組①・2組②

1. 単元名 漢字と平仮名の調和
2. 単元設定の理由 中学校のテーマを受けて、国語の授業及び校内行事、また普段の学校生活に発展できる書写の授業の在り方を、今回は提案してみたい。(以下略)
3. 指導目標
 - ・「いろは歌」について理解し、平仮名の字源を確認して書くことができる。
 - ・漢字に調和する平仮名の筆使いや字形に気をつけ小筆で整えて書くことができる。
4. 学習計画
 - 第1時(本時①) **大河内 清明**先生
平仮名の誕生やその背景を知ること、文字に対する意識を深める。
「いろは歌」の字源を確かめ、自分の名前を小筆で書く。
 - 第2時
平仮名の基本的筆使い(右回り・左回り・結び)を学び、小筆の扱いに慣れる。
 - 第3時
始筆の位置と筆の動きに留意し、字形を整えて丁寧に「いろは歌」を書く。
 - 第4時(本時②) **田中 邦子**先生
平仮名の字形や基本的な筆使いを理解し、文字の大きさや配列を意識して「漢字に調和した平仮名」の学習を応用した文化祭に向けた作品作りをする。
5. 本時の目標
 - ① 平仮名の成立について理解し、平仮名の字源を確認する。
 - ② 漢字に調和する平仮名の筆使いと字形を理解し、文化祭に向けた作品づくり「竹取物語を書く」をする。
6. 本時の学習活動
 - ①
 - i 江戸時代の図版から「文字(書)」が日常生活と密接に結びついていたことを知る。
 - ii 課題「身近な筆文字を探せ!」を鑑賞する。
 - iii 「ひらがな」の成立について歴史の教科書で確認する。
 - iv 「いろは歌」について理解する。
 - v 「ひらがな」学習の始めとして教科書を参考に字源を使って自分の名前を書く。
 - vi 「ひらがな」で自分の名前を書く。
 - vii 次回の予告
 - viii 片付け
 - ②
 - i 平仮名の特徴について復習をする。
 - ii 本時の学習目標を知る。
 - iii 本時の課題の説明を聞く。 ○「竹取物語」について ○学習プリントについて
 - iv 作品作りに向け、気持ちを整え、集中する。
 - v 文化祭に向けた作品作り 「竹取物語」の冒頭部を書写する。
 - vi 本時の提出作品を選び、記名の後、提出する。
 - vii 文化祭での書写作品鑑賞のポイントを知る。

☆ 授業の工夫

①の授業では……

★ デジカメによるスライドショー

事前に生徒たちに筆文字をデジカメで撮らせ、それを解説とともに見ていくことで、筆文字が身近に存在することが理解できた。

★ パワーポイントを活用したプレゼンテーション

学習活動の ii～iv で、パワーポイントを使い、生徒たちの視覚に訴え、理解しやすいものとなっていた。

★ 歴史教科書の参照

万葉仮名が草書で速書きされ、草がなになり、さらに簡略化して平仮名が成立し、1900年に整理統合されて今日に至ることを、歴史の教科書で確認することで、理解が深まった。

★ 字源の活用

字源を使って自分の名前を書くことにより、平仮名の字源に対する理解が深まった。

②の授業では……

★ 原寸大の手本の活用

手本は「竹取物語」の冒頭部分であったが、原寸大の手本を与えられた生徒は学習しやすそうであった。

★ 罫線シート(本時の下敷き)の活用

手本と同じ大きさで、文字だけがない下敷きだったので、容易に作品作りに取り組めていたようである。

★ 書写鑑賞カード(文化祭)を活用したフィードバック

文化祭に展示された作品を鑑賞して、ベスト1を選び、その人の名前と印象に残ったポイントを書くようになっていた。そこには、「鑑賞のポイント」が6つ書かれていて、これまでの書写学習をフィードバックできるようになっていた。

☆ 分科会より

①の授業では……

- ・ 書写教育が得意ではない国語教師の授業である。「国語」の中に「書写」は含まれていないはずだが、なかなか難しい。 【授業者】
- ・ 本来はもっと時間をかけて指導すべきところを圧縮した授業だった。 【授業者】
- ・ 持ち味を生かした授業であり、パソコンを取り入れての授業はたいへんよかった。 【参観者】
- ・ 仮名で4時間を予定してあるのは、とても丁寧な扱いである。 【助言者】
- ・ 授業内容が盛りだくさんだったので、生徒の中には、いつになったら書けるのかと思っている者もいたのではないか。 【助言者】
- ・ 最終的にはいかに硬筆に生かせるのが重要である。 【助言者】

②の授業では……

- ・ 「なぜこの時代に筆が必要か」という矛盾を必然性に変えるのが書写教育である。
【授業者】
- ・ 書き始めたら他人の邪魔をしないという静謐な時間を常に確保したいと考えている。
【授業者】
- ・ 静謐な時間というが、先生の指導はどこにあるのか。また、生徒との関わりはどうなるのか。 【助言者】
- ・ ますの中に入れる漢字と仮名の大きさはこれでいいのか。 【助言者】
- ・ 授業の目的（めざすところ）は作品作りではない。「ベスト1」をめざすこととは違うのではないか。 【助言者】
- ・ 個人的には小筆は大賛成である。 【助言者】

【研究実践発表より】

「書写学習の評価と実践」 （東京都中学校書写研究会）

- ◎ 指導計画の工夫
 - ・ 時数確保のために書写の時間として、毎月2～3時間を必ず指導計画に入れる。
 - ・ 指導の効率化を図るために、年間3回書写学習の時数をまとめて集中的に指導する。
- ◎ 書写と書写以外の国語の学習と組み合わせる作品作りを行い、両者を一緒に評価する。
（例） 詩の学習の最後に自作の詩を創り、それを毛筆で書いて、挿し絵も添えた。
- ◎ その他の実践
 - ・ 年度始めに、画用紙に折り句で自己紹介を書かせる。
 - ・ 宿泊行事に短歌・俳句をつくり、画用紙に書き掲示する。
 - ・ 人権週間の取り組みを毛筆で書かせて、校内に展示する。
 - ・ 国語科の授業の発展学習として提出させるレポートは、「見やすさ」「読みやすさ」「文字のきれいさ」を相互評価する。
 - ・ 新聞作りでは、「絵文字」「文字の綺麗さ」が高い評価ポイントとして挙げられる。
 - ・ 授業で「行書」を扱う時は、書写以外の国語の授業も板書は行書で行う。
 - ・ 作品を一年間保管し、一年間の学習の成果についても評価するようにしている。

「これからの書写指導 一より成果を高める書写の授業について」

（中野区立中央中学校 教諭 吉崎 映子）

- ◎ 今後の課題
 - ・ 年間授業時数の減少に伴い、授業時間の確保が重要であり、計画的に進めること。
 - ・ 指導者の意欲的な取り組み。
 - ・ 指導者が日常的に文字指導に取り組むという意識を強くもつこと。

☆ 助言者の提言の中から

《評価観の転換》

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 受身的 ⇒ 主体的 | 6. 遅延的 ⇒ 継続的 |
| 2. 否定的 ⇒ 肯定的 | 7. 部分的 ⇒ 総括的 |
| 3. 平均的 ⇒ 個別尊重 | 8. 量 ⇒ 質 |
| 4. 結果 ⇒ 過程 | 9. 教師だけの評価 |
| 5. 一時的 ⇒ 継続的 | ⇒ 自己評価・相互評価 |

【終わりに】

新年度に入っすぐに、本校では学校独自の年間の指導計画を作成した。各学年きちんと「書写」の時間が明示してある。しかし実際はどうかというと、なかなか「書写」の授業が行われていないのが現状である。

夏休みに、石川県内の国語科の先生方約30人に伺う機会があったのだが、1年生ではまだ「書写」が行われている学校が半数近くはあったが、2・3年生では皆無に等しかった。

では、本校はどうかというと、全書研のように、文化祭を機会に少しは書写に取り組む授業を行ったクラスもある。私が担当する2年生では、行書の5つの特徴を復習したあと、毛筆を2時間続けて行い、文化祭ではその一部を展示した。「書写は楽しかった。」「また書きたい。」という声だけに安心するのではなく、それを日常にどう生かすかを改めて考えていきたいと思った。

今回の東京大会では、「生活に生かす書写・書道教育」をテーマに授業や提言が行われた。その中で、中学校では「文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習」をテーマとした授業や研究発表を見せていただいた。

「生活に生かす」とは、また、「日常化を図る」とはどういうことか。さまざまな実践を聞かせていただくことによって、私なりに考えることができた。それは、「イベントの中でベスト1をめざす」ということではなく、「日常的に作品作りに終始する」ということでもない。また、文字が基準通りに書けたということでもない。学習した能力を日常の生活に役立てる力をつけることである。すなわち、日常、気をつけて、調和よく、理解して、正しく、速く、整えて、読みやすく、を認識して書くことができるように指導していくことが必要なのである。日頃から、書写の学習で培った能力を日常の生活の中でいかに役立てさせるかという観点で指導していかなければならないということである。

書写を苦手とする国語科教師は多い。しかし、教師自身が筆を駆使することができなくても、課題についての目標と、そのどれが達成できたかどうかを指摘できればよいのではないかという意見もあった。それについては多少の疑問も残るが、指導の時数をきちんと確保し、効率のよい指導を行っていくことが何より大切であると思う。

また、「書く」という主体的な活動は、「総合的な学習」とも大きく関わっている。「書写」と「総合的な学習」との組み合わせをまだまだ工夫すべきだと実感した。

第27回全日本高等学校書道教育研究会 栃木大会 報告

公開授業A 漢字仮名交じりの書(書道I)『白』に語らせる書表現」に参加して

石川県立鶴来高等学校 広畑登代子

- ・授業者 大浦舟人先生(栃木県立宇都宮女子高等学校)
- ・单元名 書道I 表現「漢字仮名交じりの書」(使用教科書 新書道I 教育図書)
- ・対象 第1学年1・2組 書道選択者 19名
- ・テーマ 自作のことばによる古典を生かした表現 「白」に語らせる書表現
- ・单元の目標
 - (1) 書の作品は文字自体の表現に加え「白」の空間が重要な役割を果たす。古典から学んだことからをはじめ、制作に臨むころの充実や思いのたぎり、想像力の豊かさ等が、線質の強さ、繊細さ、豊かさ、薫りとなって「白」の空間を生かすことを学ぶ。
 - (2) 自作のことばは、自分の見つめ直し今の自分の映し出すものにする。
 - (3) 古典の持つ「いのち」の魅力を十分に感じ取らせ、これまで学んできた古典の「いのち」を生かし、古典の価値を再発見する。
 - (4) 今回の作品の表現を通して、新たな課題を発見をする。
- ・本時の目標
作品の「白」を生かし、空間にいのちを響かせようとするこゝで、表現しようとするイメージをより豊かで鮮明なものにし、書風や線質をねらいに合わせて工夫しようとする姿勢を養う。
- ・本時の評価(観点)
 - ①自分を表現することの喜びを味わうことができたか。
 - ②古典のいのちを生かそうとしたか。
 - ③線質を追求するとともに、「白」の空間にも意識を向けることができたか。
 - ④本時の学習を通じて新たな課題を見いだすことができたか。

本授業では、会議用長机を2つくっつけて、それに2人の生徒が斜めに向かい合った席であった。下敷きは机2個大の特注品。説明を聞くときは座っていたが、書くときは立っていた。墨は清墨を使用。紙は全紙1/3で、空いている椅子に掛けている。

本時は入学から23時間目60分授業(通常65分)である。古典の魅力を十分に吸収させ、その成果を反映させるにはあまりにも忙しい、と授業者は感じておられる。生徒には自分を高めようとする気迫がある。先生が生徒を信ずる心にも強いものがあつた。

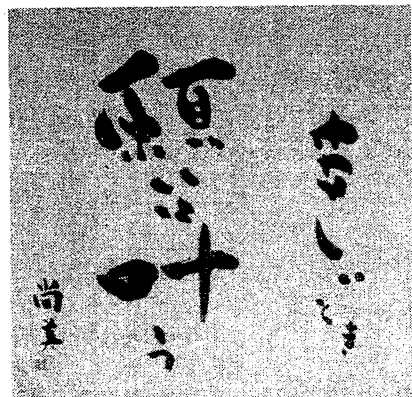
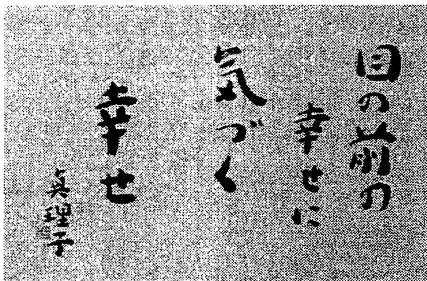
古典の「いのち」を訪ねてじぶんの「いのち」を磨くということから、九成宮醜泉銘の碑面から字とその間隔を、雁塔聖教序から「抑揚に富むいのち」を、顔氏家廟碑から「氣迫富むいのち」を見る。顔氏の字の間隔の狭さには奥行き深さ、根の深さがあると見て

いる。紙面を平面ではなく立体としてみている。升色紙には「繊細な線に詩情を奏でるいのち」を見、また、文字の重なりは紙面を立体的に見ていたと考える。このように平面を立体空間にかえて「白」の空間にいのちが響くようにしていく。「白」は「見えないものを見る空間」である。その例として、雪舟の山水画が印刷して配布されていた。そこに水や舟などを想像して発表していた。創造の第1歩が感じられた。宮本武蔵「枯木鳴鶴図」から書線は立体空間を生むいのちを持っていることを知り、線質の追求へ繋げていく。

書き始める前に、体と心のウォーミングアップのための柔軟体操（腕・手首・腰の回転・膝の屈伸）、自作のことはを朗読。1名が朗読発表。自作のものを人前で朗読するのはちよっとはずかしい様子、しかし、物怖じしない。一つ一つのことはへの想いと全体のリズム（抑揚・間）を確認。この朗読は書線にいのちを宿し、空間にいのちが響くようにすることに繋がる。書く前に気を高め、書く時は足を開いて立ち膝と腰を使う。肘は曲げて紙を押さえる。紙面を立体空間として見つめる。一枚目製作後、感想を発表。前時との違いに注目する。

その後、作品鑑賞。中野北冥「私の心が安らかになる空」で「白に語らせる表現」を鑑賞。落合弘「八つ起きの達磨……」「紫陽花理屈より……」で「白が語るための書線」を鑑賞。2枚目3枚目を改善点明確にし書作。迷ったら、古典のいのちを生かす。その後、前時の作品と比較して、ペアの級友に批評してもらう。「前時より、墨の色が濃くなった。」濃い墨の中に黄色いものが見えている。線が光り輝いているように見える。」というように。生徒の能力は高い。先生の意図を解し協力出来る。自分の変容に気づくには、まず隣人の変容に気づくことが大切と授業者は考えている。大きく変容した作品もあった、「いつも心に太陽を」「苦しいとき願いは叶う」など。落款の位置に雅印シールを貼り出来上がる。

最後に、授業者の大浦先生はこれまで「漢字仮名交じりの書」に師風追従の病んだ現代書壇の縮図を見る思いを持っていたが、書を自己表現の手段と捉え、かつ、古典から学んだことを生かすという意識に転換することで偏見も失せてきたと述べられました。また、平仮名については、漢字との選択学習になるため知らずに終わることがありうることを心配していらっしやいました。平仮名は縦書きの連綿から生まれ、形状も縦書きに向くものであり、縦書き文化の意義に対して改めて認識する必要を感じていらっしやいました。



研究協議会Ⅰ(全国大会報告)

(10:30~12:00)

「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

司会 水上 真由美(金沢商業高等学校) 記録 磯野 美佳(星稜中学校)

<レポート> 全日本書写書道教育研究会東京大会報告

<レポーター> 岩田 稚子(高岡中学校)

<質疑応答>

- ・新教育課程が施行され、書写の時間を確保しづらいという現状の紹介がなされたが、そのような現状はなぜ起こっているのですか？(質問)
 - (答え1)「読む」「聞く」の学習に時間をとられてしまう。
 - (答え2) これまでは、中学1年生において週1時間が確保され、時間割に組みこまれ、担当者も決められていた。しかし、国語科週4時間の中で弾力的に扱うとなると、曖昧なものとなっている。
 - (答え3) テストや学校行事を優先しがちになってしまうから。このような現状においては、「書き初め」の時間を確保するのが、やっとである。
- ・このような現状に対して、書写の先生は何も言わないのか？(質問)
 - (答え) 書写は単独教科ではなく、国語科に含まれるため、これも難しい。
- ・硬筆と毛筆とのつながりを具体的に教えてください。(質問)
 - (答え) 例えば、ハネやハライなどの基本点画が毛筆ならば捉えやすく、それを硬筆に立ち返って学習することができる。
- ・大会テーマを見てもっと心の教育を重視し、どう扱うかについて力点が置かれていいように思うが、書写における心の教育的役割についてどう考えるか？(質問)
 - (答え) 活字は心がこもらないが、手書き文字には心に訴えかけるもの、個性がある。
- ・文学と書との関係は実に深い。硬筆と毛筆の関連については、レポーターのおっしゃった通りである。我々は活字に埋もれている。活字は「読む」ためにデザインされたものである。「美しく・速く書く」ための文字ではない。活字は横線が水平である。それに対し、手書きは右上がりである。また、手書き文字は必ず、トメ、ハネ、ハライがある。活字に埋もれている中で、手書き文字の特徴、理屈を分からないで指導してもムダである。何を教えるのか精選すべきである。字を書く基本は毛筆である。そこから硬筆へ展開していく。硬筆が書けるように毛筆をする。そして、芸術の「書道」につなげていくべきである。しかし、今中学校における「書写」が抜けていくのは、悲しむべきことである。(感想)

<レポート> 全日本高等学校書写書道教育研究会栃木大会報告
<レポーター> 林 昭悦(津幡高等学校), 広畑 登代子(鶴来高等学校)

<質疑応答>

- ・「雅印シール」とはどのようなものなのか？(質問)
→(答え) 半紙に印を押したものを特殊コーティングし、その端にシールをつけたもの。印を簡単にはがしたりつけたりができ、印の位置についても確認ができるという点で、便利なものである。

- ・この研究授業のどの点が、参考になったか？(質問)
→(答え1) 自作の詩を自分で表現する際に、学習した古典の「いのち」を自分の力にする点。
(答え2) 来年度の学習指導要領改訂によって、先に漢字の学習ができなくなり、さらに仮名との選択となった。このような流れの中で、古典の空間を意識させて、それを漢字仮名交じりに取り入れていく授業であった。しかし、これは、誰でもできるものではない。漢字仮名交じりの学習において、導入をどうすべきか、自分の言葉をどう書くか、といった問題提起の場でもあった。

- ・高等学校における「書道」の配当時間は？(質問)
→(答え) 週2時間。現行は、1年は2時間、2年は1時間、計3時間が選択必修である。しかし、次年度から1年の週2時間で、以降選択となり、実質2年ではなくなる。

- ・この研究授業の生徒は、小・中学校にかなり書塾等で学習してきた生徒が多いのか？(質問)
→(答え) 学力は高い。しかし、特別な生徒達ではない。

- ・古典を真似がちになりそうだが、古典への取り組み具合は、いかほどなのか？創造的な学習が高校書道のように感じたが、そうなのだろうか？
→(答え) 手本なしで書くというのは、大変である。考えて書くことの大変さを感じた。

- ・漢字仮名交じりの書がはやっている。しかし、それを教育の場で取り上げることとは別の次元である。世界の文字は300以上あるが、それを芸術にまで高めたものは、漢字と仮名のみである。その要因は、様美一体にある。小・中学校で学んだ基礎・基本の上に高等学校「書道」はあるべきだ。漢字仮名交じりに古典はないという声も聞くが、生活に根ざした平安時代の書状や消息、江戸時代の俳諧もある。その後、尾上柴舟氏らの書もある。それらには、書法があり、それを教育の場で指導すべきではないか。(意見)

公 開 授 業 報 告

研 究 協 議 会 Ⅱ 報 告

実 践 発 表 レ ポ ー ト

研 究 協 議 会 Ⅱ の ま と め

一人ひとりの良さが生き、認め高め合う書写学習の展開

野々市町立菅原小学校
堀 順一郎

1. はじめに

まず、今大会のテーマについてであるが、「豊かな心を育てる」ということが、書写書道教育の目的の一つであり、「基礎基本をふまえながら」実践を深める中で、そのことの実現を図るということの意味するのだと捉えることにした。

書写書道における「基礎基本」といえば、「姿勢」「筆使い」「筆順」等の技能的な要素が中心をなすと考えられる。技能を身に付けることは大切なことであるが、技能面を一つ一つ取り上げて、切り出し、画一的に練習するというような学習を繰り返しているだけでは、「豊かな心を育てる」ということの実現に向けて何か足りないのではないかと考えた。

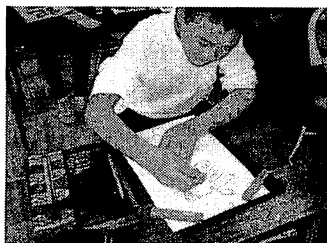
そこで、技能を身につけていく学習を中心としながらも、その中で「一人ひとりの良さ」が発揮でき、さらにそのことを元にして「認め高め合う」ことのできる学習内容や学習過程の工夫をすることで大会テーマに迫ろうと考え、今年度の書写の学習におけるテーマを「一人ひとりの良さが生き、認め高め合う書写学習の展開」と設定し、実践を深めることにした。

2. 具体的な手だて

「一人ひとりの良さが生き、認め高め合う書写学習」の展開を考えたときに、様々な基礎基本を身につけることを中心に考えた学習の具体的な手だてと、一人の良さが生き、認め高め合うことを中心に考えた学習の具体的な手だては次の通りである。

○朱墨での練習コーナー

できあがった作品の修正点に朱書きすることによって見直すことができる。



○ワークシートの活用

個々が苦手としてこだわっている点やはらい、はねなどの部分的な課題を克服することでより共通課題に集中して取り組みやすいようにすることができる。

また、基礎基本の技術を身につけることができる。

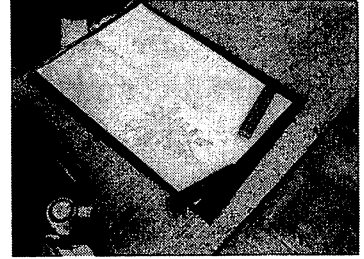


○チョークを使っての自作ワークシート

課題解決に向け、より自分に適した練習用紙を作ることができる。

○掲示コーナー

掲示コーナーに掲示し距離をおいて自分の作品を見ることで、より良くしたい部分を気づくことができる。また、仲間と共に見ることで、互いに認め合う場とする。



○振り返りシートの活用

文章化することによって課題をより明確にしたり、相互評価を通して互いに認め合うことができる。

○水書板練習コーナー

水を使って何度も練習できることや興味をひくことができる。

○ペア学習

一人ひとりが課題を持ち解決に向けて努力するが、その過程において一人ひとりの良さを生かし、認め高め合えるような学習にするために、関わりを持てるよう二人ペアになったり、グループとしての活動の場を設定する。具体的な子供達の活動の場は以下のものである。

- ・二人ないし三人で座り、課題の確認やふり返り、練習方法の工夫など相談したり関わり合えるようにする。
- ・同じ机に座っている仲間の作品の良さを認め、推薦してみんなに発表する場も設ける。
- ・課題ごとにグルーピングしてよりグループとして課題解決に向け練習できるようにする。

○学習環境の工夫

教室内のスペースに余裕を作ることで、気持ちのゆとりを持って学習をすることができる。また、練習コーナーを設置することができる。

- ・普通教室より大きい空き教室と長机を使用。
- ・作品や紙などを床に広げることなく、コンパクトに整理することができるように厚紙と一日分の新聞紙で自作した書写バックの使用。

○今年度テーマに迫るために実施した取り組みと今後の予定

- ・今年一年の目標を一文字で表し、好きな色紙に書こう ・篆刻作り
- ・年賀状作り (予定) ・自由課題書き初め (予定) ・大きな紙に文字を書こう (予定)

3. 本時の学習

1. 単元名 第6単元 「文字の組み立て方と字配りを確かめよう」『記念』

2. 単元の目標

- ・文字の組み立て方と字配りを理解して書くことができる。
- ・文字の組み立て方を理解して硬筆で漢字を書くことができる。
- ・自己課題を見つけ、よりよく解決することができる。
- ・課題解決のため工夫して意欲的に取り組むことができる。

3. 単元構成にあたって

(1) 教材観

第6学年の書写に関わる指導事項は(ア)文字の形、大きさ、配列などを理解して読みやすく書くこと(イ)毛筆を利用して、点画の筆使いや文字の組み立て方などを理解しながら、文字を整えて書くこと(ウ)毛筆を利用して、字配りよく書くことの3つである。これまでに、「左右」「上下」の組み立て方、「たれ」「かまえ」「による」のある文字の組み立て方、「三つの部分」からなる文字の組み立て方などについて学習してきた。

本単元では、5年生から「文字の組み立て方」についての学習をしてきたが、総まとめ的な内容として文字の組み立て方を分類して確かめることや、二字の字配りの内容を取り上げる。また、譲り合いによる各部分の「大きさ」「形」「画の長さ」「画の方向」「終筆」等の変化について理解し、毛筆を通して硬筆に生かせることが出来るようにする。

(2) 児童観

クラス35人素直な児童が多く、普段から明るく元気に過ごしている。またクラスとしてのまとまりもようやく見られ、互いに助け合ったり、励まし合ったりできるように少しずつなってきた。

学習の場面では、教師側から与えられたものについてはしっかりとこなすことができるが、自分で考えて、仲間と相談して見通しを持って学習できるという面においてはまだ不十分である。書写学習においては消極的であったが、『心を込めて書こう』ということ、『自分の変容に気づく』の他に基礎基本に取り組んできたため少しずつ意欲が出てきた。また、試し書きとまとめ書きの大きな違いに喜んで家にもって帰りたいという児童も出てきた。

(3) 指導観

書写の学習における硬筆では書写ノートに黙々と取り組み、丁寧に書いている。しかし、普段のノートやプリントになると書写で学んだ基礎基本が生かされず、つい自分のくせ字が出たりしてしまう。教師側から書写で学んだ基礎基本を生かすように伝えれば書くことができるがまだまだ日常の生活に生かされていない現状である。

硬筆の書写ノートの取り組みでは、個人での学習が中心となり互いに評価し合うという場面も少なかった。硬筆ノートのみで終わらず、3次での学習等において硬筆を生かし、

互いに認め合える場面を書写の時間や普段の授業の中で取り入れたい。毛筆では、課題別にグループで取り組んだり、作品を発表する場を通して互いが共感できるようにしたい。子供達は、4月当初発表することを恥ずかしがったり、消極的だったが一人ひとりの良さを認め合うことで積極性も出てきた。課題克服の練習では、仲間と相談したり、お互いに刺激し合っている姿も見られ、子供と教師の関係から少しずつ仲間同士で練習、批評できるように促したい。また、学習する過程において教師側がすべて与えるのではなく、個人や仲間と共に考える場、選択する場を設け、その中の経験を評価していきたい。

4. 単元計画（総時数3時限）

- 一次 ・毛筆で「記念」を書くことを通して、共通課題である文字の組み立て方、字配りや自己課題を見つけ、克服しようと練習することができる。
- 二次 ・毛筆で「記念」を書いた学習を生かし、硬筆や毛筆で文字の組み立て方と字配りに注意して関連文字を書き日常化を図ることができる。

		学習活動と児童の反応	教師の支援○と評価★
一 次 1 時	文字の組み立て方や、字配りについて理解し、自己課題を見つけ	<ol style="list-style-type: none"> 教科書の「理想」を参考に文字の組み立て方の特徴に、元の文字の形が変わることがあることに気づき、行の中心を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 「理」のおうへんは「王」と違って右側が短くなっている。 「想」の「相」も「心」も横幅はあまり変わっていないが高さが変化している。 教科書題材を見ないで「記念」を毛筆で試書をする。 試書を基準と照らし合わせて各自の課題を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> 中心がずれた 「記」が大きくなりすぎて「念」がつぶれた 「念」の心が中心をずれてしまった 練習方法を工夫し、課題解決に向け、ワークシートや半紙で練習をする。 試書と練習後の作品を比べ、自己評価、相互評価をする。 本時のまとめをする。 	<p>○特徴がわかりやすくなるように紙に書いた文字を実際に切り張りできるようにする。</p> <p>○書く前に「記念」の漢字の確認をする。 ★共通課題や自己課題を見つけることができたか</p> <p>○練習方法について仲間と相談する場を設ける。</p>

<p>2 時 (本 時)</p>	<p>課題解決に向けて練習することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書く準備として自分の気持ちを筆と墨を使って紙に表現する。 2. 本時のめあてを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通課題「文字の組み立て方に気を付けよう」 「字配りに気を付けよう」 ・ 自己課題「ごんべんの書き方に気を付ける」 『念』の『心』を中心の書く」 3. 練習方法を工夫し、課題解決に向け、ワークシートや半紙で練習する。 4. まとめ書きをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 試書と前時の作品、今日の作品を比べ、自己評価、相互評価する。 ・ 今日の毛筆を生かして硬筆で「記念」や「理想」を書いてみる。 5. 本時のまとめをする。 	<p>★共通課題や自己課題をしっかりと持てたか</p> <p>○より適した練習方法を選択できたり、気づくことができるように課題別にグルーピングする。</p> <p>○課題発見を促す発問や問いかけ、悪字例と比較などをする。</p> <p>★課題を意識して書くことができたか</p>
<p>二 次 時</p>	<p>文字の組み立て方や字配りに気を付けていろいろな文字を書くことができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてを確認する。 「毛筆で『記念』を書いたことを生かして同じような組み立て方の文字を字配りに気を付けて書いてみよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「記」や「念」と同じ左右、上下の組み合わせの漢字は他にどういうものがあるかな？ 3. 自分で題材を決めて、硬筆（鉛筆、シャープペン、カラーペン、マジック等）や毛筆で練習する。 4. 練習したことや感想などを発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ えんぴつだと消せるので書き直しができるからいい。 ・ ボールペンは書きにくかった。 ・ 硬筆で書くとどうしても中心がずれてしまう。 ・ 硬筆で大きな文字を書くのは難しい。 ・ 大きな文字を書くときは毛筆の方がいい。 	<p>○共通課題が明確になるように児童の作品等を有効に活用する。</p> <p>○同じような作りの漢字を見つけやすいように漢字辞典などを使用</p> <p>○書くだけに終わるのではなく、めあてが意識できるように助言する。</p> <p>○一人ひとりの良さが生きるように、硬筆の種類別、毛筆の経験からそれぞれの特性を含めた話が出るようにする。</p> <p>★前時までの学習を元に他の文字を書くときに生かすことができたか。</p>

5. 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・ 共通課題や自己課題を解決するために、工夫して練習することができる。
- ・ 文字の組み立て方や字配りを意識して書くことができる。

(2) 展開

学習活動	児童の活動	教師の支援○と評価★
<p>1. 書く準備として自分の気持ちを表す。</p> <p>2. 前時の振り返り課題の確認する</p> <p>3. 課題を意識しながら練習する。</p> <p>4. まとめ書きをする。</p>	<p>今の気持ちを紙と筆を使って表現してみよう。</p> <p>共通課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 文字の組み立て方と字配りを考えよう！ </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> 中心をそろえて書くようにする </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> 「記」が大きすぎるでもう少し小さく書く。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> ごんべんの形に気を付ける。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 40%;"> 「はね」と「はらい」に気を付ける </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 修正点の見直し →朱墨 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 繰り返し練習 →水書板 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 写し書き練習 →課題文字ワークシート </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 文字の組み立て方 →赤チョークでの自作ワークシート </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 止め・払い はねなどの部分練習 →ワークシート </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;"> 思い通りに書けたか確かめる →掲示する </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 100px;"> 批正 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 練習を生かし、まとめ書きをする。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> 自己評価、相互評価をする。 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; margin-top: 10px; float: right;"> やった！ うまく書けた </div>	<p>○一人ひとりの良さが認め合えるように発表の場を設ける</p> <p>★共通課題や自己課題をしっかりと持てたか</p> <p>○より適した練習方法を選択できたり、気づくことができるように課題別にグルーピングする。</p> <p>○課題発見を促す発問や問いかけ、悪字例と比較などをする。</p> <p>○仲間の課題を聴く場を設定し、自己批正の参考となるようにする。</p> <p>★工夫して練習しているか</p> <p>○練習方法に迷っている児童に助言する。</p> <p>○手を持って一緒に書く。</p> <p>○共通のつまづきがある場合や適切でない傾向が見られたら全体として取り上げる。</p> <p>★課題を意識して書くことができたか</p>

今日の毛筆を生かして、振り返りシートに「記念」や「理想」を硬筆で書く。

○一人ひとりの良さが互いに認め合えるように発表の場を設ける。
○次時につながるように心掛ける。

5. 本時のまとめをする。

字配りよく書くことができた。

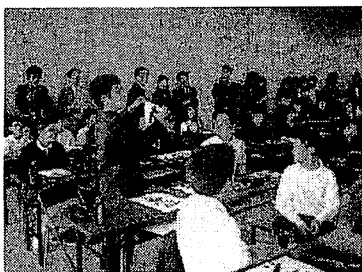
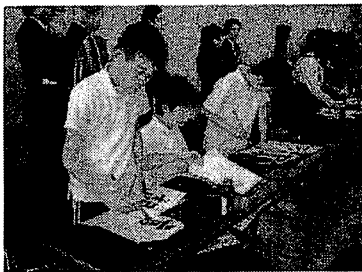
「念」の上下の組み合わせがうまくいった

文字の組み立て方を考えたら上手くなったかな

○○さんの○○がすごく良いと思う。

★仲間の良さも発表し互いに認め合えるようにする。

<授業の様子>



「一人ひとりの良さが生き、認め高め合う書写学習の展開」

司会 西脇 良樹 (越路小学校)

発表者 堀 順一郎 (菅原小学校)

助言者 岡部 朋代 (石川県教育センター)

記録 西田 素子 (野々市小学校)

1. 授業者より

- ・ 「手本にいかに近づけて書けるか?」「作品がうまくできたか?」に自分がこだわりすぎて、生活の中に生かすということが弱いことを反省している。作品を仕上げるのが終着点になっている。
- ・ 書写に親しむために具体的な手だてを工夫して、授業を組んでみた。
水書版を利用するなどして、子ども達も意欲的に取り組んでいた。
他にも、i 広いプレールームを利用し、移動で机にぶつからないようにする。
ii 作品をまたいだりしないように、バッグを使用。
iii 作品を洗濯ばさみでつるし、少し離れた所から鑑賞する。 など
- ・ 意欲的に活動できたが、技術面の向上を一番考えなければならなかった。それぞれの課題に沿った道具や練習の方法についての支援をどうするか?そのあたりが甘かったように思う。
- ・ 時間の余裕がなく、一人ひとりの良さを取り上げたり、友達同士で認め合う場が少なかったのが、残念だ。

2. 質問、感想

- ・ 私も「お手本にいかに近づけるか」をいつも意識し、授業をしている。
- ・ 授業の初めに、今の気持ちを書く活動を取り入れていたが、「リラックスさせる」「筆に慣れる」というねらいなのだろうが、今日のねらいにどう結びついているのか。
- ・ 全員の共通課題は、目に見える具体的な物にすれば良いのではないか。一人ひとりの課題の前に全体で同じ課題があっても良い。
- ・ 今日の先生の出場のポイントはどこか。

→返答

- ▶ 昨年交流している中国の深セン小学校へ、「年賀状を書こう」という取り組みをしたが、文字だけでなく、絵も描きたいという子がいた。実際に絵を描いてみると、細い線を太い筆で描くことが難しく、筆にかける力・筆先の向きなどに結びついているところもある。
また、手本を見て書くことだけが「書」ではないことの意識化にもつながっている。子どもの自然な感性が、字配りなどに取り上げられて、生かせられたらとも考えている。
- ▶ 対先生へ「どれが良い?」「こんなものになった」と一対一の関わりを求める子が多かったため、自分は少し引いて子ども同士が関わり合えるように構えていた。
- ▶ 指導案にあるように、練習シートを活用した。
- ・ 自分のクラスの実態として、太筆を全部おろすことに抵抗感のある子もいる。
また、教師が「見本に忠実に」を意識するあまり、子どもも失敗を恐れてしまう雰囲気を作っていることを反省した。今日の授業を見て、リラックスする場面も必要と感じた。

- ・ これから、書き初めの練習に入っていくが、大きな紙に書かせる難しさを感じている。いつも椅子に座ったり、立って書いているので、膝をついて床で書く姿勢がとても難しい。

→返答

- ▶ 書き初めでは、一字をまとまりとして捉えさせるようにする。一字の一画一面にとらわれすぎないように注意すると良い。
- ・ 教科書の手本をいつも原寸大にコピーしたり、準備が大変なのではないか。教師の仕事は、「いかに短時間で、すくない労力で効果を上げるか」が勝負である。つまり、教師の指導力にかかっている。先生に、声をかけてもらったり、指導してもらった子は一時間の学びはあるかもしれないが、自己評価・他己評価の場をしっかりと与えることが大切。

簡単な指導で効果をあげていく方法を考えていくと良い。

Ex. i ひとかたまりのグループを立たせて、みんなに作品を見せて、評価を受ける。

ii 机の向こう側に立って、逆の方向から字を眺めさせる。

iii 半紙を裏返しにして、見てみる。

- ・ 基礎・基本の何を指導するのかを明確にすると良い。

[筆の持ち方について]

*毛筆が硬筆とむすびつく指導を

→筆を持った時と鉛筆を持った時の持つ位置の違い。細筆と太筆でも違いがある。指2本、遊びの空間。

筆を持つ角度=60° →この角度が始筆終筆の45°の角度を作る。

筆にかける力の指導

*横画、縦画、おれ、はらいなどの運筆の指導の紹介

[その他の道具の使い方]

硯は机の向こう方に置く。手前に置くと、筆先を揃えることばかりに集中してしまう。

文鎮の置き方

半紙の四つ折りに慣れすぎると、線に頼った文字になってしまう。そういう時期であっても良いが、あまり繰り返していると、感覚が鈍る。

3, 助言者より

- ・ 教育センターの講座で「鉛筆の持ち方指導」というVTRを視聴した。近頃、鉛筆を正しく持てない教師や子どもが増えてきているのではないか。学校の書写のカリキュラムがどうなっているかを見直し、基礎基本の徹底を職員みんな考えてほしい。
- ・ 友だちの作品を見合うときは「良い」という評価の観点・基準を与えると良い。
- ・ 学校の中で「書く」という作業は、避けては通れないものである。書くことを研究していくことは、大事なことである。

4, 研究会より

作品をはさむ書写バックと掛け軸の作り方についての紹介。

(次ページに参考資料掲載)

書写バックを作ってみませんか

毛筆の時間は、新聞紙を敷いて墨がつかないようにはするものの、書いた半紙が床に散らばり歩くスペースもない・前に書いたものが気に入っていたのに重ねたら汚れてしまった……。そんな経験は誰にでもあるものです。

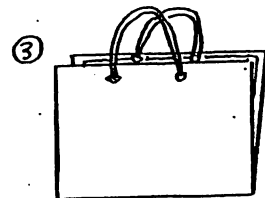
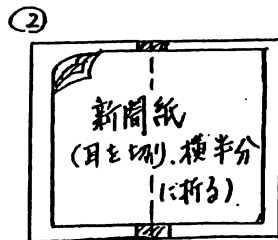
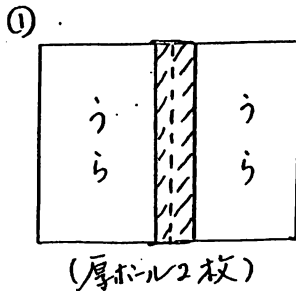
書いた作品が散らからず、乾いてなくてもすぐにしまえ、またあとから取り出す事もできる、書写バックを紹介します。安い材料で、子供たちが楽しみながら作って使えるので、気軽にチャレンジしてみてください。

<材料>

- ・ A3版の厚ボール紙 2枚
- ・ 新聞紙5～6枚程度
- ・ ひも
- ・ ガムテープ
- ・ その他（絵を書くマジック・はさみなど）

<作り方>

- ① 2枚の厚ボール紙を内側からガムテープで繋ぐ。
- ② 内側に新聞紙をはさむ。ずれるのが気になる場合はひもなどでとめる。
- ③ 開く方にハトメパンチで穴をあけひもを通す。
- ④ 表紙に好きな絵を書いて出来上がり。



包装紙を使った掛け軸

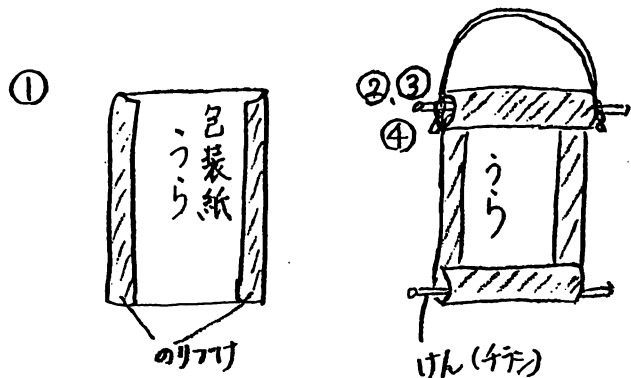
半紙の作品を教室掲示するとき、色画用紙に張っていくのはよく見られます。しかし、身近な材料を使ってちょっと工夫すれば、“掛け軸風”作品展示の出来上がりです。いろいろな色の包装紙を持ち寄れば、教室の壁面が明るく楽しくなります。なお、包装紙は濃い色のほうが半紙作品ははえるようです。

〈材料〉

- ・ 包装紙
- ・ チラシ
- ・ リボンまたはひも
- ・ その他 (のり, はさみなど)

〈作り方〉

- ① 前面の部分が半紙の横幅より少し大きめになるように包装紙の横を裏に折る。
- ② チラシを端からななめにかたく巻き、“ケン”を作る。(2本)
- ③ 包装紙の上下にケンを巻き込み、程よい大きさのところに糊付けする。
- ④ ケンは、適当な長さで切り落とし、上の部分にかけ紐をつける。
* チラシで作るケンの代わりにラップのしんを使って作ることも出来ます。その場合は、ひもを結ぶ関係で上のラップのしんには割りばしを通すといいです。



大会に参加して

第13回 石川県書写書道研究大会 に参加して

石川県立翠星高等学校 中川 悦幸

午前には、全国大会参加報告をうけて、意見交換がおこなわれた。

岩田教諭より、東京大会「生活に生かす書写・書道教育」の中学校テーマ「文字に対する認識を深め、日常化を図る書写学習」について、参加報告された。歴史の教科書で「ひらがな」の成立を確認（他教科利用）、自分の名前を字源によって書くなど授業に工夫がなされていて、技術面ばかりでなく、パソコン等、視覚による指導で、多角度から理解を深め、達成の喜びや、書写鑑賞カードの活用により鑑賞眼が培われると思った。書写の授業が充分確保されていない現状にあって、学習した能力を生活の中に生かす指導の在り方と、「書写」と「総合的な学習」との組み合わせをまだまだ工夫すべきとの報告だった。毛筆による、「はね」「はらい」の明解さが硬筆に生き、手書きによって心が癒されると思うとの、感想が述べられた。

広畑・林教諭より、栃木大会（テーマ「自作のことばによる古典を生かした表現『白』に語らせる書表現」）の参加報告がなされた。まず、柔軟体操で体と心をほぐし、イメージトレーニングによる創造力、線質の追求（雪舟の山水画、宮本武蔵「枯木鳴鶴図」）をされ、互いに、意見交換することにより、作品の向上を図る。紙面を立体空間にかえて「白」の空間に、いのちが響くようにする等、より難しい課題を、自分の言葉による心の表現として、互いに研鑽し自己の表現を確立する、授業の進め方に、多くの事を学んだ。体を使って書いた物だと感じるとの、感想が述べられた。

午後からは、堀教諭による、「一人ひとりの良さが生き、認め高め合う書写学習の展開」の実践が公開された。各人で批正課題を決め、グループに分かれ、目的の達成に取り組む。まず、いまの気持ちを発表させることにより、緊張をほぐし本時に入る。前時の復習、漢字を偏・旁に分解の上、組み立ての解説。ここに、課題「記念」の漢字の成り立ち（字源）を、提示して欲しかった。

批正方法 1. 課題をグループで検討。 2. 自分の字に手本を敷き、赤チョークでなぞる。 3. 赤チョークで概形を書き、その中に筆で書く。 4. 敷写し 5. ロープに洗濯バサミで、作品を下げる展示コーナー 6. 振り返りシート 7. 朱墨 8. 水書板 9. ワークシート。行き届いた準備と机間巡視による助言と励まし、個々に真剣に書き込み、最後に前回より、自分の作品の良くなった箇所を発表、他の人の作品についても良くなった箇所を発表するなど、互いの成果を認め合う、心に響く授業であった。書写バッグを活用する事により、作品が乱れず、自己を見つめ書写力の向上を図り、書く喜びを感じる、活気のある授業であった。意見として、共通課題が一つあっても良いのでないか。作品の見る方向を変えたり、正しい筆、姿勢、エンピツの持ち方等基本の指導が必要であり、しいてはそのことが書写の向上に繋がるとの事であった。今一度、生徒の現実を踏まえて、日常生活に生かされ、自己表現の確立による達成感が、更に生涯学習に結びついてゆくように、細心の配慮が望まれる。

第13回 石川県書写書道研究大会 研究協議会Ⅱに参加して

金沢市立中央小学校 中西 外美

新指導要領が今年度から実施され、各教科において、「基礎・基本とは何か。」「基礎・基本をどのようにして定着させるか。」が議論されている。今回の石川県書写書道教育研究大会も、大会テーマを、「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」と掲げて、開催された。

大会では、午後から公開授業が行われた。野々市町立菅原小学校の堀先生が、「一人一人の良さが生き、認め高め合う書写学習の展開」というテーマのもと、授業をされた。授業の中で、子どもたちは、課題別のグループを作って関わりながら学習していた。また、教師は、一人一人が課題に向かうために、たくさんの練習の場を設けていた。これらの工夫は、手本を見て、手本どおりに書くことこそがよい作品を書くことだと思っていた私にとっては、全く新しい手立てであり、これからの実践にぜひ取り入れていきたい内容だった。

授業後の研究協議会Ⅱでは、今日的话题とも言える「書写における基礎・基本」が話題に出された。実践授業で提案された、「課題別グループによる学習」や「多様な練習の場の工夫」も、すべて基礎・基本が身につけていてこそできる学習であるという示唆があった。そして、基礎・基本として、筆の持ち方、足の位置、姿勢、文鎮の置き方、硯や墨の位置、筆の角度や払い折れ、曲がりなどの書き方…とたくさんの方が話された。

これまで、書写指導をしてきて、これらの基礎・基本を、一人一人に、確かに、力としてつけてきたかと問われると、否である。「豊かな心を育てる書写指導」のためには、基礎・基本は絶対に欠かせないものである。小学校では、三年生から書道が始まるが、その時、その場で教えるべき基礎・基本がある。その機を逸してはならない。もちろん、螺旋的・反復的に技能を伸ばしていかなければならないが、それぞれの学年でつけるべき力をしっかりとカリキュラムに位置付け、確実に力にしていかなければならないと強く感じた。

「書く」という行為は、物心ついてから、人間が一生涯、行っていくことである。その基礎・基本を身につけるという書写教育について、私達はさらに研修や実践を重ね、厳しく相対していかなければならないと思った。

自分の書写授業を振り返る

小松市立月津小学校 山越 清寛

毛筆にしる硬筆にしる、自分の書写の授業では、いかにお手本に近づくかを目標としてやってきた。それで間違いはないと思いつつも気になる点はいくつかあった。

それは、子どもたちを見ていると書写の字はていねいできれいであるが、普段ノートに書く字には生かされていない。ワープロやパソコンの発展した現代、筆やペンで手書きする必要性はあるのだろうか。書写の授業では子どもたちの主体性や子どもどうしの関わりは、どのようにしていったらいいのだろうか。というようなことで、それらの疑問を抱きながらも、書写は書写でいいのだ。と割り切ってやってきていた。

そんな時、第13回石川県書写書道教育研究大会要項の「基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」が目に入った。書写の基礎基本とは、豊かな心を育てるとはなんだろうか。自分のやっている授業を外から見てみたい。と思いつつも大会会場に足を運ぶことにした。

まず東京大会に参加された岩田先生の報告があった。そこでの大きな課題は「書写学習の日常化をどう図るか。」であり、書写には芸術性と日常性の二面があることに気づいた。自分の授業はどちらかと言えば芸術性に目を向けた授業ではないだろうか、しかし、小学生の子どもたちにとっては芸術性よりもむしろ日常性を大切にしたい授業をしなければならないのではなかろうかと考えた。なぜならば書写ほど直接日常生活に関わってくる芸術はないからである。

正しい文字・美しい文字にふれさせ書かせることが日常化の基礎基本であり、書写の授業ばかりでなく、日記やノートも正しい文字・美しい文字という観点で評価してあげることが必要ではなかろうか。また、正しい文字・美しい文字の原点である毛筆を有効に活用するために、常に硬筆と毛筆のつながりを意識して書く習慣をつけることも大切なことであると思う。このように正しく美しい文字を書くことの日常化の中から、美しい文字が書きたいという生活に結びついた芸術性の芽が出て育ってくるものと思われる。言うは易しく、行うは難しいことであるが少しずつ心がけて書写の授業に臨みたいものである。

広畑先生と林先生の発表からは書の芸術性を考えることができ、堀先生の授業からは子どもの主体性や子どもどうしの関わり合いを勉強することができました。

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)

1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)

1989. 8. 29 **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	兼 任
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長>	
	木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課:	
	[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	永井志津子
	[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	高沢幹夫

* 金沢地区

: 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
: 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
: 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
: 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

* 加賀地区

: 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
: 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
: 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

* 能登地区

: 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
: 高校部: 蛸喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

: 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>

:副事務局長： 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
 :庶務部： 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
 :会計部： 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
 :研究部： 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
 :会報部： 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭>
 :研修部： 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
 :調査部： 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
 ~17・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成 2年) 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会

(平成 3年) 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]

第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成 4年) 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]

第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行

(平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]

第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行

1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

(平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]

9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20 第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行
(平成8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21 第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』(第14号) 発行
(平成9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第15号) 発行

11.21 第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』(第16号) 発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第17号) 発行

11.2 第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]
第22回理事会

1999. 3. 『石川県書写書道教育』(第18号) 発行
(平成11年) 6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』(第19号) 発行

10.19 第10回石川県書写書道教育研究大会[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

2000. 3. 『石川県書写書道教育』(第20号) 発行
(平成12年) 6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第21号) 発行

12.7 第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]
第26回理事会

2001. 3. 『石川県書写書道教育』(第22号) 発行
(平成13年) 6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12.6 第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]
第28回理事会

2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行
(平成14年) 8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行
10. 23 第86回石川県書写書道教育懇談会
12. 1 第87回石川県書写書道教育懇談会

12.6 第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・菅原小学校]
第30回理事会 [六華苑]

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

～基礎基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育～

回	開催日	公開授業	記念講演	
			講師	講演題
1	1990.11.19	金沢市立南小立野小学校2年 金沢市立野田中学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	久米 公先生 (文部省視学官・ 千葉大学教授)	「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
2	1991.11.18	野々市町立野々市小学校1年・6年 石川県立養護学校 (学校公開・クラブ活動等)	續木湖山先生 (帝京大学教授)	「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」
3	1992.11.18	金沢市立鳩和中学校1年	久米 公先生 (千葉大学教授)	「学習指導の最適化のために」
4	1993.11.11	金沢市立富裡小学校3年 石川県立金沢商業高等学校1年 石川県立金沢泉丘高等学校1年	田中東竹先生 (実践女子大学教授)	「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
5	1994.10.19	小松市立安宅小学校6年 小松市立女子高等学校1年	柳下昭夫先生 (東京家政大学講師・ 前教育課程審議会委員)	「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲 を高める書写書道教育のあり方」
6	1995.10.20	鹿島町立越路小学校5年 ・研究発表(養護学校)	浦野俊則先生 (二松学舎大学教授)	「漢字は生きている」
7	1996.11.21	金沢市立弥生小学校4年 石川県立中央高等学校2年次 ・研究発表(中学校)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「意欲を高めるための書写書道教育」
8	1997.11.21	加賀市立南郷小学校4年 ・研究発表(中学校・高等学校)	宮澤正明先生 (山梨大学助教授)	「実験を通して考える書写・書道」 —「手本が無くてかける」をめざして—
9	1998.11.2	内灘町立大根布小学校3年 ・研究発表(中学校・大学)	平形精一先生 (静岡大学教授)	「これからの書写・書道教育の方向と課題」
10	1999.10.19	七尾市立天神山小学校5年 ・公開学習(幼稚園) ・研究協議	久米 公先生 (大東文化大学教授)	「書写・書道教育における今日的課題」
11	2000.12.7	【金沢勤労者プラザ】 ・パネルディスカッション ・研究発表		
12	2001.12.7	【根上町総合文化会館】 ・研究協議 ・研究発表	町川 哲先生 (香川県土庄小学校教諭)	「書写指導における具体的実践にむけて」 ～香川県の実践をもとに～

平成14年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

顧問 山岸 勇<石川県教育委員会教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成
福田教導 永井志津子 中山武久 林道子

会長 藤 則雄<金沢学院大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

[石川県教育委員会学校指導課長]	☆鈴森庸雄
[石川県私立幼稚園協会理事長]	源 通<妙源寺幼稚園園長>
[金沢市小学校教育研究会(書写代表)]	☆長井珠子<金沢市立内川小学校教頭>
[金沢市中学校教育研究会書写部長]	金浦修郎<金沢市立兼六中学校校長>
[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	寺島恆機<県立金沢錦丘高等学校校長>
[石川県特殊教育諸学校校長会代表]	新保紘子<県立医王養護学校校長>
[石川書写の会会長]	細川 聰<羽咋市立西北台小学校校長>
[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	押木秀樹<上越教育大学助教授> <前金沢大学教育学部助教授>

理事長 石浦義彦<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

: 小学校部: 大浦 努<金沢市立不動寺小学校教諭>
北野勝彦<小松市立稚松小学校校長>
西村由紀子<七尾市立有磯小学校校長>
: 中学校部: 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭>
: 高校部: 林 昭悦<県立津幡高等学校教諭>
: 盲・弱・養護学校部: ☆尾小山輝子<県立盲学校教頭> [県特殊教育諸学校
教頭会代表]

監事 ☆永江芳教<松任高校教諭> ☆帽子山瑞枝<西岸小学校教頭>

理事

* 石川県教育委員会

[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	高 絹子<七尾教育事務所指導課長>
[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	塩 泰尚<学校指導課主任指導主事>

* 金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 石野昌子<長坂台小学校教諭> 中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 中学校部： 福島絹子<泉中学校教諭> 古本佳世<城南中学校教諭>
- : 高校部： 永江芳教<松任高校教諭> 久田英夫<金沢中央高校教諭>
- : 大学部： 北室正枝

* 加賀地区

- : 中学校部： 小座間美智子<山中中学校教諭> 高市比呂子<東和中学校教諭>

* 能登地区

- : 小学校部： 帽子山瑞枝<西岸小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <中島中学校校長>
- : 高校部： 蟬喜代子<県立飯田高校教諭>
- : 盲・ろう・聾学校部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： 中川晃成<蕪城小学校教諭>
- : 副事務局長： 岩田稚子<高岡中学校教諭>

- : 庶務部：
 - 部長・田中学<金沢伏見高校教諭> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
 - 部員・北野京子<大根布小学校教諭> ・柿木千鶴<蕪城小学校教諭>

- : 会計部：
 - 部長・西尾恵美子<串小学校教諭>
 - 副部長・岸瑞代<大聖寺高校講師> 部員・山沢聡美<御幸中学校教諭>

- : 研究調査部：
 - 部長・八田和幸<内灘中学校教諭> 副部長・水上真由美<金沢商業高校教諭>
 - 部員・西脇良樹<越路小学校教諭>・北村千恵<片山津小学校教諭>
 - ・坂井雪絵<羽咋小学校教諭>・木之下知子<材木町小学校教諭>
 - ☆堀順一郎<菅原小学校教諭>

- : 会報部：
 - 部長・佃さえ子<松陽小学校教諭> 副部長・新谷幸一<小立野小学校教諭>
 - 部員・磯野美佳<星稜中学校講師>・寺井純子<直小学校教諭>
 - ・中辻育代<粟生小学校教諭>・吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>
 - ・唐津清美<西浦小学校講師>

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条（名称） 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条（本部・事務局）本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条（目的） 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
（1）研究会の開催
（2）会報の発行
（3）関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
（4）講演会・講習会の開催
（5）調査研究
（6）その他必要な事業
- 第5条（組織） 本会は、県内の幼稚園（保育園・保育所）・小学校・中学校・高等学校・大学（短期大学・専門学校）・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条（役員） 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
（1）事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
（2）本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
（3）役員の選出と任期は、下記のように定める。
（Ⅰ）役員は理事会において選出する。
（Ⅱ）役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条（理事会） 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
（Ⅰ）理事会は必要に応じて、会長が召集する。
（Ⅱ）理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条（会計） 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条（会計年度） 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条（監査） 本会の会計は、監事によって監査を受ける。

【附則】

- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

中国品=古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品=画仙紙・色紙・各種書道額縁

書道用品専門店

文房四宝 **文真堂**

金沢市尾張町2丁目11の28 TEL 264-1836



東京書籍

北陸支社：〒920-0918 金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル

TEL.076-222-7581 FAX.076-232-2719

ホームページ…<http://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット…<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

新しい書写 書写練習帳

全面改訂

[石川書写の会]コンクール課題付き
採用校に書き初め手本(実物大)を進呈

教科書
完全準拠

1・2年各上・下巻/3～6年各1冊
B5変型判/各26～36頁/4色刷
定価各320円(本体各305円)

- 「新しい書写」に完全準拠しています。
- 教科書と同じ執筆者の文字を使用した練習帳です。
- 「基本」「練習」「まとめ」のページで、教科書にそって段階的に技能の向上が図れる構成になっています。
- 筆使い・字形・筆順などの書き方のポイントを色刷りで示しています。
- 3～6年は、毛筆教材中の硬筆文字も収録しています。毛筆・硬筆の関連学習に効果的です。



書道名言辞典

宇野雪村・西林昭一・福本雅一 編著

A5判/788頁
本体7573円(税別)

書・篆刻・文房に関して、中国・日本の書論・随筆・詩などから名言・名句を集め、やさしく解釈・解説した読む辞典。学書・指導・鑑賞の指針となる初めての書の名言辞典。

技術と伝統・額縁と共に半世紀



株式会社 **大 曷**

本社 〒729-3497 広島県甲奴郡上下町字上下1513-1
TEL (0847) 62-3517 FAX (0847) 62-4528
東京営業所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀1-16-5
TEL (0822) 42-3085 FAX (0822) 42-3251
福山営業所 〒721-0907 広島県福山市春日町6-14-24
TEL (084) 941-8161 FAX (084) 941-8048
額縁・衝立・屏風・掛軸 製造販売

練習用から作品用まで

墨液
(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗
(作品用)
普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂 〒630-8357 奈良市杉ヶ町39-1
(0742) 26-5611

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液 書芸吳竹
天衣無縫 松潤



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨



作品用書道液

株式会社 **具竹精昇堂**

〒630-8670 奈良市南宮終町7丁目576番地
TEL.0742-50-2050 東京・札幌・福岡

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) **久保田徳**

筆匠 竹嶋

☎731-4215

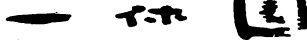
本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番付
東京 東京都台東区台東3-42-4

書道殿堂東京久保田号ビル



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒730-0051 広島市中区大手町1-5-11 TEL082(543)2844
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-5 0 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央31-12-201 TEL045(942)4119
“アンテナショップ”
熊野筆センター広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀5-2-9 TEL082(222)1919

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材



株式会社

因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地

TEL(0857)24-6611 FAX(0857)27-1811

E-mail insuyya@apionet.or.jp

高級押し額縁 各種特注額 器具製作
高級木製額縁 各種屏風・衝立

株式会社 **サン美術工芸**

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33

TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3861

http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@pl.tcnet.ne.jp

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5

TEL 075 (812) 3318

平成14年度 光村図書版教科書完全準拠

●小学校書写 児童用教材

書写の練習	1・2年 上下 3～6年 年刊	各 320円 (税込)	A4縮小判 24ページ 1～6年 4色刷り
毛筆書写の練習	3～6年 年刊	各 420円 (税込)	B4判 各32枚 3～6年 2色刷り

●小学校書写 指導用資料 (学校備品)

新発売 毛筆書写指導ビデオ	VHS全3巻 各約30分	各 9,975円 (税込)	監修・指導 金子卓義 宮澤正明
書写掛図 (硬筆)	1・2年 各1巻	各 12,600円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻12枚 2色刷り
書写掛図 (毛筆)	3～6年 各1巻	各 16,800円 (税込)	縦841mm×横594mm 各巻16枚 2色刷り

●中学校書写 生徒用教材

中学 硬筆練習帳	1年/2・3年 全2冊	各 350円 (税込)	B5判 各24ページ 2色刷り
----------	----------------	-------------	--------------------

光村教育図書株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-27-4
TEL.03-3779-0581 FAX.03-3779-0266

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-0002 金沢市千木1丁目33-1

TEL (076) 253-0618
FAX (076) 253-4618

文部科学省
認定

硬筆書写・毛筆書写検定

・後援 — 全国都道府県教育委員会

・試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

・試験日（同日実地）

◎平成13年度第3回…14年1月27日(日)

◎平成14年度第1回…14年6月16日(日)

（毎年6月、11月、翌年1月の3回実地）

・試験地

全国主要都市、20名で試験会場設置可

・受験者必読参考書刊行（申し込みは協会へ）

硬筆：手引きと問題集（定価1000円 ㊦310円）

毛筆：手引きと問題集（定価1100円 ㊦310円）

・受講料

	1級	2級	3級	4級
硬筆	4,120円	2,060円	1,550円	1,030円
毛筆	4,640円	2,680円	1,850円	1,030円

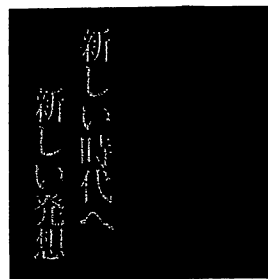
・特典

書写・書道教育に最適。大学・短大の入試で優遇。高校の単位認定に認められた。公的資格が得られ、進学、就職に有利。

■願書請求法 — 宛名明記の返信用封筒（80円切手貼附）と切手200円を同封し、協会にご請求下さい。

㊦170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3 TEL03(3988)3581(代) FAX03(3988)3528

財団法人 日本書写技能検定協会



企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

AO 能登印刷株式会社

本社 ● ㊦920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号

TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559

工場 ● ㊦924-0013 石川県松任市番匠町293番地

TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016

グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もろろん

筆文

株式会社 賛交社

本社 京・山科区勤修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390

株式会社 教育統計会

〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目12-22
TEL(076)252-1245 (代表)
FAX(076)251-8461

文	溪	堂
新	学	社
光	文	書
教	育	同
日	本	標
		準



代理店

教材・教具・文具

藤田商店

小松市新鍛冶町13の1
TEL0761-21-3278

ただいま
ヒットして
います!



書写の時間に 児童、一人ひとりの氏名の指導にピッタリ!

毛筆お手本ねーむ

ヤマガミの書道セットについてくる!

- 名前が書きの指導にピッタリ
- 長年使えるパウチ加工
- 中央線も入って見やすい

有限会社 ヤマガミ共育社
〒921-8001 金沢市高島3-154
Tel. (076) 291-1250 Fax. (076) 292-8008
E-mail yamagami@e-zenken.com

あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売 有限会社 **本田教材社**

書道セット
かきかたノート

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705

IT時代のお手伝い

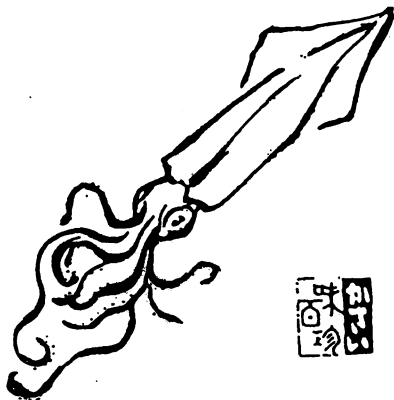
もてる機能をフルに活用して
“より正確、より速く、より美しく”を目標に
創造性豊かなコミュニケーション作りに挑戦しつづけます。

カタログ・PR用ダイレクトメール・機関誌
新聞・チラシ・一般事務用印刷物・シール



株式会社 小林太一印刷所

〒920-0211 金沢市湊1丁目110番地
TEL(076)238-5454(代) FAX(076)238-5453
E-mail : a-kobayasi@po5.nsk.ne.jp



珍味のかさい

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地
TEL (076) 247-2231
FAX (076) 247-3612
片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号
TEL (076) 262-9333
FAX (076) 262-9333

(株)津田精工

松任市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105
TEL 243-1555
FAX 243-1783



この道四百年・創業慶長十四年(1609年)

株式会社 浅野太鼓

浅野太鼓祭司株式会社

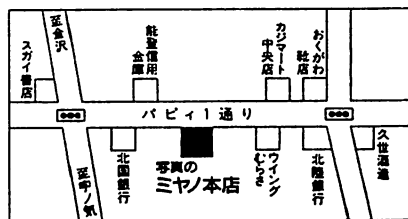
〒924-0051 松任市福留148 TEL(076)277-1277

スタジオ写真

赤ちゃん・ご家族・成人式・ご入学・七五三・証明写真・商品撮影・
婚礼写真・葬儀用写真・デジタル加工・デジタルプリント・etc

写真の ミヤノ

- 本 店/津幡町津幡ハ98-1 ☎289-4181
FAX 289-2143
- 森 本 店/マイモールモリモト ☎257-3780
- 新 神 田店/金沢市入江1丁目28 ☎291-8022

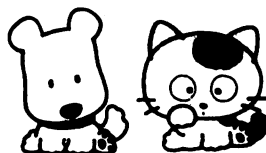


OA機器・事務器・文具・紙製品

百 々 商 会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地
TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

松任市新田町10-3
TEL 076-274-6370

株式会社 犀川コーポレーション

代表取締役 板倉 満

〒921-8047 石川県金沢市大豆田本町ハ17-2
犀川MIビル1F
TEL 076-291-1211
FAX 076-292-3900
E-mail: sa2000@spacelan.ne.jp

名鉄観光サービス株式会社

金沢支店

〒920-0918
金沢市尾山町3番20号(日本生命金沢ビル)

TEL(076) 231-2126
FAX(076) 223-1289

金沢名鉄丸越案内所

〒920-0855
金沢市武蔵町15番1号(金沢名鉄丸越百貨店3F)

TEL(076) 260-2457
FAX(076) 260-2650

一般看板広告

有限会社 **アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL 248-2367(代)

トコブツ

日本の旅

世界の旅

VITA



豊かな感動のステージへ

東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

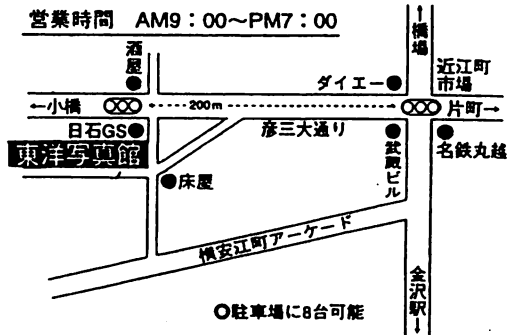
スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト

金沢市彦三町二丁目五一五 〒920-0901

☎ (076) 231-6456

FAX (076) 221-1097

営業時間 AM9:00~PM7:00



販売. 整備. 一般

株式会社 喜多自動車

〒921-8802 石川県石川郡野々市町押野4丁目204番地

TEL(076) 246-3351(代)

FAX(076) 246-3353

PRINTING
RENAISSANCE

伝えたいことを、伝えたい人に
印刷とマルチメディアの栄光プリントです。



株式会社 栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17

TEL (076) 251-3076 FAX 252-2917

<http://www.eiko-p.co.jp>

日本画・洋画

美術部

掛軸 額装 屏風

壁襖貼製
工作
事部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

諸紙・印刷・文房具・事務用品

鷹田弘文堂

代表 鷹田時子

〒920-0831 金沢市東山3丁目10番43号
TEL・FAX 252-9341

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 布村教材社

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

競技者をサポートするプロショップ
バスケット・トラック&フィールド・サッカー・バスケボール専門店

Handa Sports

☆営業時間 午前10時～午後8時
☆定休 日水曜(水曜祝日営業)

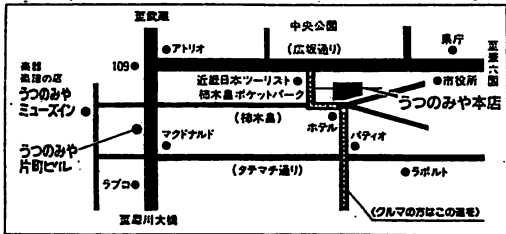
Handa SPO-II



TEL(076)221-6665 TEL(076)241-7760
〒920-0864 金沢市高岡町22-5 〒921-8164 金沢市久安2丁目330番

“せせらぎの街 柳木島”

本 うつのみや (雑貨) Oops!



☎920-0962 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)

あしたの教育を拓く

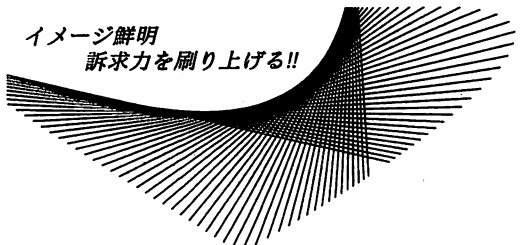
- 暁教育図書 の 教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- ### 北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4
☎(076)232-2425(代)

コクヨスチール製品・紙・文具
事務用品・OA機器・結納品一式

白井紙文具店

七尾市小丸山台2丁目48番地
TEL (0767) 52-0809(代)
FAX (0767) 52-0879



人・事・色、あざやか。

MP 宮下印刷株式会社

〒920-0047 石川県金沢市大田町甲251番地
TEL(076)263-2466(代) FAX(076)263-1234

信用第一、在庫豊富
建設資材総合センター

木谷金物株式会社

新店舗 石川県七尾市国分町井部52 - 1
Tel (0767) 53-2185(代)
Fax (0767) 53-5363

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県松任市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも

ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

近畿日本ツーリストは総合旅行会社として初めて
環境管理システム国際規格 ISO 14001 の
認証を取得しました。

人が好き。地球が好き。旅がスキ。
国土交通大臣登録旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員



近畿日本ツーリスト

金沢支店



〒920-0981 金沢市片町1-1-34 (第一生命ビル1階)
TEL (076) 232-0561 FAX (076) 232-3228
E-mail: kanazawa@or.knt.co.jp

きもの和雑貨

ふくしま



〒920-2143 石川県鶴来町七原トの4
TEL.0761-92-2940
ラクシマ